

令和元年度 青森県学習状況調査 結果の報告

青森県教育委員会が実施する学習状況調査は、県内の小学5年生及び中学2年生を対象に、平成15年度より行われており、今年度で17回目となります。

【実施日】 令和元年8月28日（水）

【対象】 小学校5年生 市内12校 442名
中学校2年生 市内9校 449名

【調査内容】 教科に対する調査
小学校：国語、社会、算数、理科
中学校：国語、社会、数学、理科、英語

令和2年1月

むつ市教育委員会 学校教育課

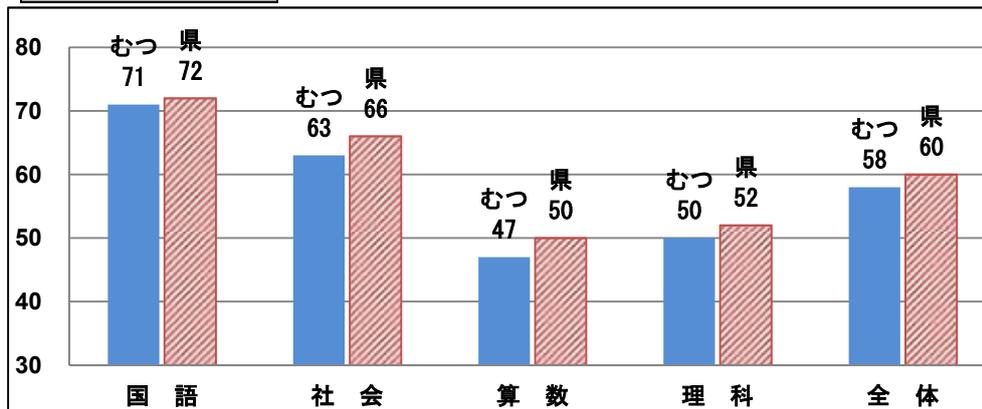
1 小学校5年生の通過率

※（ ）内は昨年度 ※単位（％）

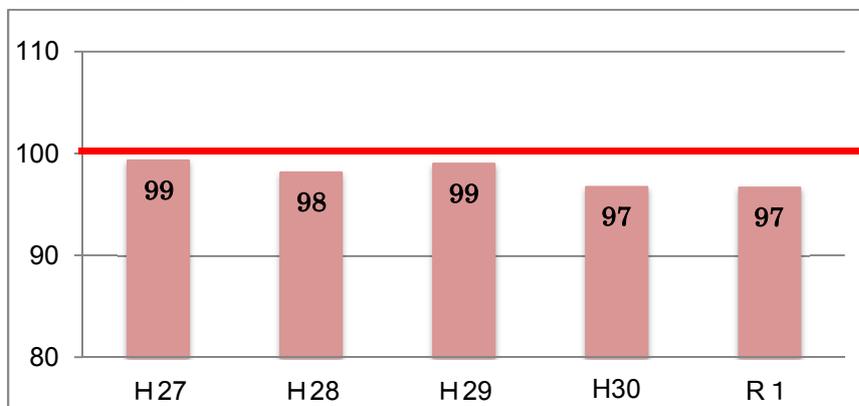
	国語	社会	算数	理科	教科全体	県到達率
青森県	72 (63)	66 (56)	50 (58)	52 (67)	60 (61)	100
むつ市	71 (63)	63 (55)	47 (54)	50 (66)	58 (59)	97 (97)
差	-1 (±0)	-3 (-1)	-3 (-4)	-2 (-1)	-2 (-2)	-3 (-3)

※2018年度から、県全体及び10市6地域の数値は整数値での公表となった。

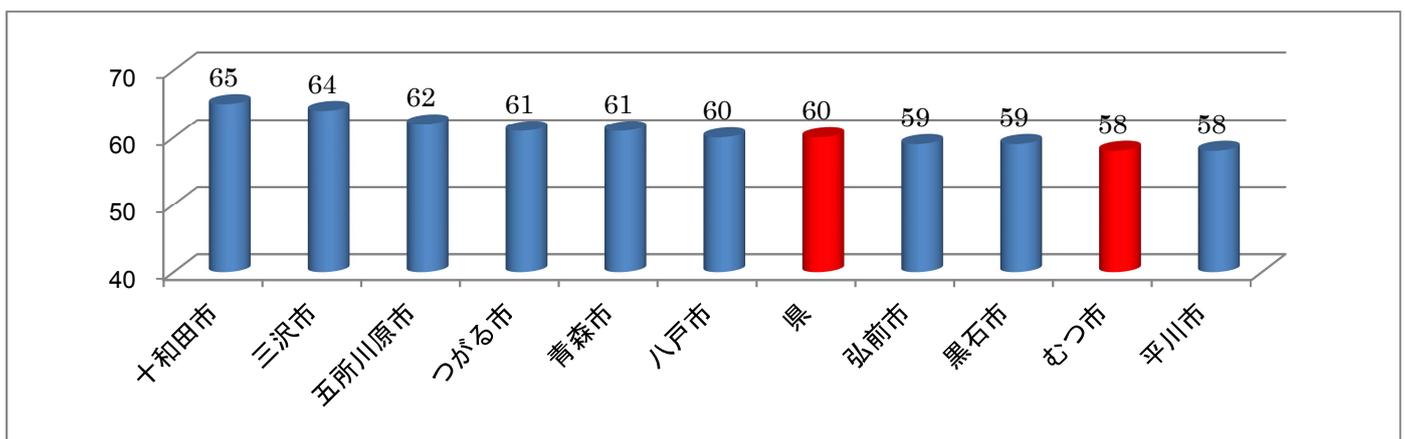
① 県とむつ市との比較



② 到達率の推移



③ 県及び他市との比較



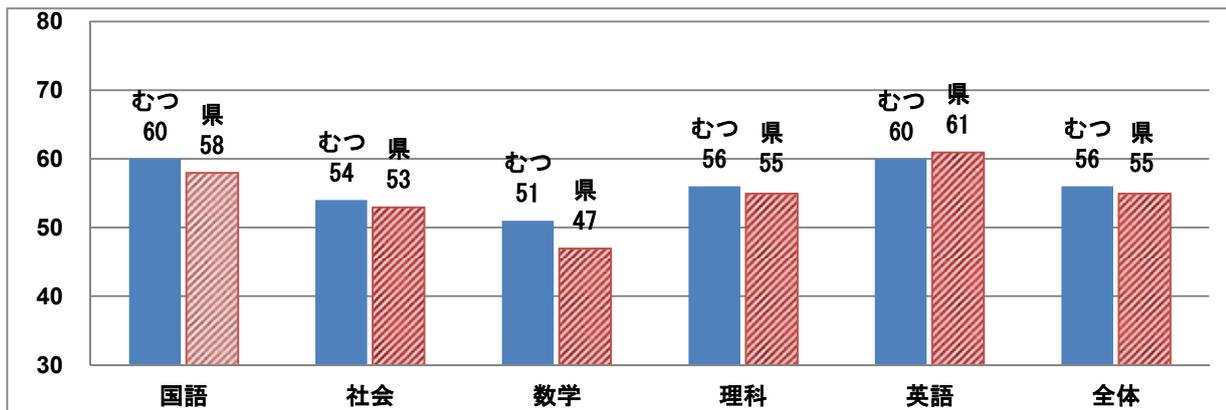
2 中学校2年生の通過率

※（ ）内は昨年度 ※単位（％）

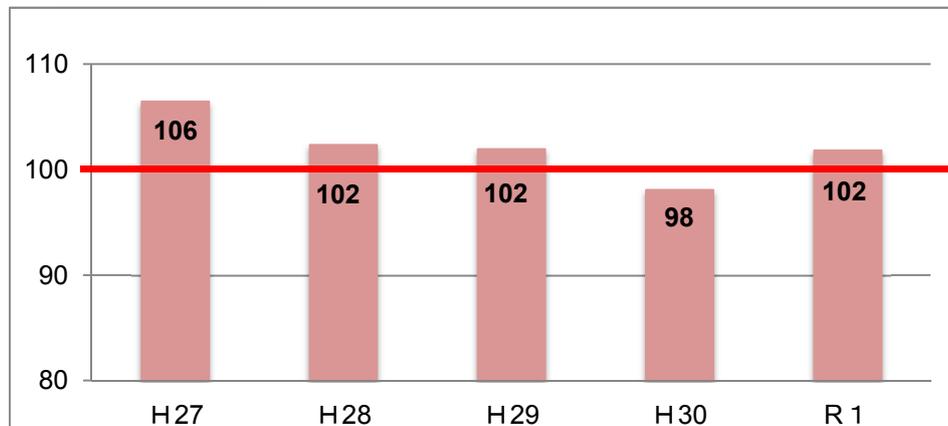
	国語	社会	数学	理科	英語	教科全体	県到達率
青森県	58 (49)	53 (55)	47 (53)	55 (51)	61 (55)	55 (53)	100
むつ市	60 (50)	54 (55)	51 (52)	56 (50)	60 (53)	56 (52)	102 (98)
差	+2 (+1)	+1 (±0)	+4 (-1)	+1 (-1)	-1 (-2)	+1 (-1)	+2 (-2)

※2018年度から、県全体及び10市6地域の数値は整数値での公表となった。

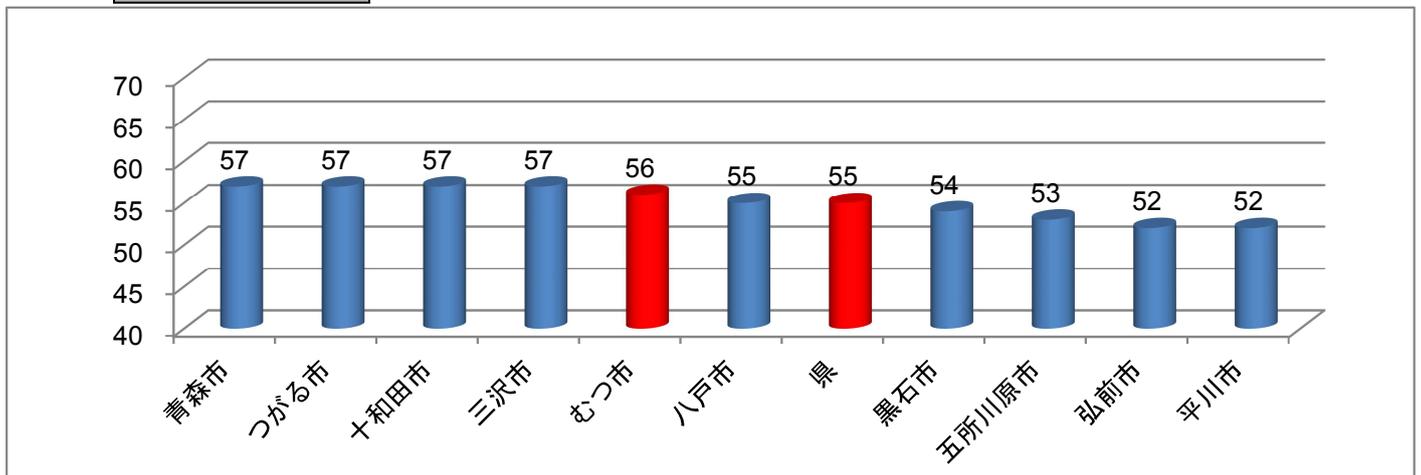
① 県とむつ市との比較



② 県到達率の推移



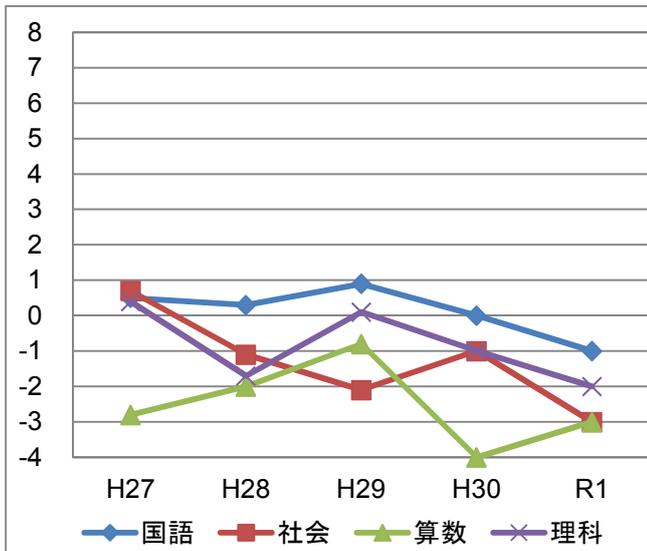
③ 県及び他市との比較



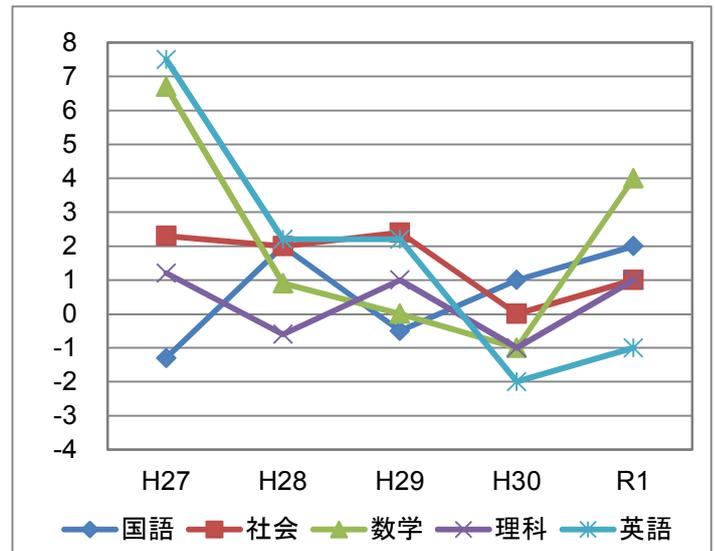
3 各教科の状況

① 各教科の通過率の推移

小学校



中学校



※平成28年度以降、出題の傾向が活用型に移行して以来、通過率に課題が認められる。

② 教科別の基礎と活用の通過率の比較

小学校	国語		社会		算数		理科	
	基礎	活用	基礎	活用	基礎	活用	基礎	活用
青森県	78	63	78	58	51	49	48	58
むつ市	77	61	74	54	48	47	46	57
差	-1	-2	-4	-4	-3	-2	-2	-1

中学校	国語		社会		数学		理科		英語	
	基礎	活用								
青森県	70	47	52	54	50	44	57	55	63	60
むつ市	73	49	53	55	55	47	57	55	60	60
差	+3	+2	+1	+1	+1	+3	±0	±0	-3	±0

※基礎（知識に関する問題）とは、身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など。

※活用（習得した知識・技能を活用する問題）とは、知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など。

4 主な対策

(1) 教育委員会の取組

- ① 「むつ市小・中学生学力向上の構造図」への組織的取組の推進
- ② 学校訪問（計画訪問、要請訪問、随時訪問）での指導助言
- ③ 教員研修の充実
 - ・教育研修センターにおいて、弘前大学教育学部と連携した各教科の講座や、活用力育成に向けた講座を開設している。
 - ・全国規模の研究大会に各小・中学校から教員を派遣し、校内研修の活性化と授業改善を推進している。
- ④ 新聞を活用した学習への支援
 - ・小学校及び中学校全学年の希望する学級に1部ずつ新聞を配備し、活用例を紹介している。
 - ・活用型問題集ドリームワークの中にある新聞記事を素材とした問題や毎週メール配信している新聞記事のワークシートの活用を呼びかけている。
- ⑤ 外国語活動の充実
 - ・ALT（外国語指導助手）の増員
 - ・英会話ワークショップ（Enjoy English）、ジュニア大使派遣 など
- ⑥ キャリア教育、体験学習の推進
 - ・キャリア教育講演会の実施
 - ・むつ市中学生夢はぐくむ体験入学、こども議会、海洋教室、ラボバス実験教室 など

(2) 各学校の取組

- ① 「小中一貫教育の推進」
 - ・小中合同研修会による授業参観の実施
 - ・小中共通の「家庭学習の手引き」や「学習の約束事」の作成
 - ・家庭学習ノートの内容や各種学力調査等の結果の共有と活用
 - ・中学校のテスト週間に合わせた、小学校での家庭学習強化週間の設定
- ② 「教育課程の編成」
 - ・朝や業間、授業後等を利用した補足的な学習の設定など日課表の工夫
 - ・授業時間数の確保
- ③ 「主体的・対話的で深い学びを視点とした授業改善」
 - ・単元や題材の中で、ペアやグループで話し合う場面や授業を振り返る場面等を効果的に位置づける工夫についての授業研究
- ④ 「組織的な指導体制」
 - ・少人数指導やTTの実施、複式学級における教科指導の単式化
 - ・学習規律の徹底と家庭学習の習慣化
- ⑤ 「個に応じた指導」
 - ・個別学習、補充学習、習熟度別学習など学習形態の工夫
 - ・各種学力調査等の結果に基づく指導改善
- ⑥ 「キャリア教育の推進」
 - ・ユメココ教室やジオパーク学習、職場体験学習などの実施
 - ・全国的な活躍をしている下北または県内関係者によるキャリア教育講演会の実施

令和元年度 青森県学習状況調査の結果

青森県教育委員会が実施する学習状況調査は、県内の小学5年生及び中学2年生を対象に平成15年度より行われており、今年度で17回目となります。その結果をお知らせします。

調査の概要

○実施日

令和元年8月28日（水）

○実施学年

小学校5年生 市内12校 442名

中学校2年生 市内9校 449名

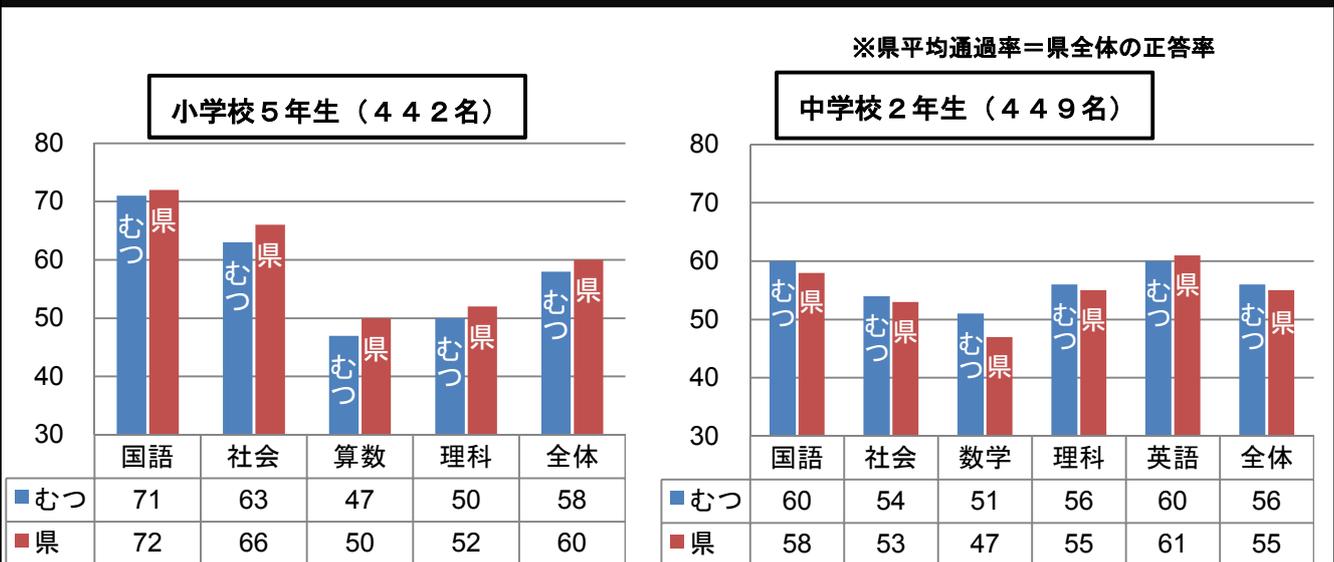
○調査内容

教科に関する調査

小学校：国語、社会、算数、理科

中学校：国語、社会、数学、理科、英語

調査の結果（県平均通過率との比較）



調査結果から

◇小学校5年生

- ・ 4教科とも県平均を下回りました。算数は昨年度より県平均との差が縮んだものの、国語、社会、理科ではその差が若干広がったため、教科全体では、昨年度と同じく2ポイント下回りました。
- ・ どの教科も「基礎」「活用」の両方に課題が見られたので、今後は、基礎的・基本的な知識及び技能と、それを活用して筋道立てて考え表現する力を一層高めていきます。

◇中学校2年生

- ・ 5教科中、国語、社会、数学、理科の4教科で県平均を上回り、英語は若干下回りました。教科全体では、1ポイント上回りました。
- ・ 国語、社会、数学、理科は、「基礎」「活用」とともに県平均を上回りました。英語は「基礎」「活用」とともに県平均を下回り、特に「書くこと」に課題が見られたため、今後重点的に指導をしていきます。

今後も、より一層教育活動の充実に努めて参ります。（担当 学校教育課 内線3138）

